



ぞうぐみだより 2月



尚徳福祉会 生麦保育園

2018年度 2月号

一年で一番寒い時期になりました。「寒いからお部屋で遊びたい」と言いながらも、いざ外に出ると大いに体を動かしていろいろな遊びを楽しんでいます。遊びを通して時にはケンカにもなりますが、友だちの気持ちにも耳を傾けることができるようになり、友だちとの関係も深まっています。卒園まであと少しですが、体調に気を付けながら過ごしていけるようにしたいです。



節分に向けて

オニのお面作りをし、自分の顔の大きさ位に風船を膨らませ、障子紙を貼って型を作り、色塗りや顔を描きました。風船を使うということにまずは目を輝かせていた子どもたち。「自分で膨らみます！」と顔を赤くしながら息を吹き込んでいました。障子紙を貼る「張り子」では、あまり触れることのない障子紙の感触を「こっちは面はツルツルだよ」と確かめながら、水で溶いたボンドをつけて風船に貼り、「風船の色が見えなくなる位貼る」ということを話していたこともあり、朝の自由遊びの時間や他クラスの午睡時間のときに「先生ー！ 続きやりたい」と自発的に取り組む姿が数日にわたり見られました。顔の色で使う絵の具や角、髪の毛はどう作るのか等話し合い、子どもたちの意見を大切にしながら進めてきました。個性的で迫力のあるオニのお面ができました。



正月あそびに夢中！

大好きなコマ回しの他に、凧あげやすごろくでも遊びました。コマは多くの子が上手に回せるようになり、ぞう組の姿を見て、きりん組の子たちも遊ぶようになって今では誰が一番長く回しているかコマ回し大会のようになっています。凧あげは貝ノ浜公園に出掛けて遊び、友だちと二人組になって「凧を持つサポート役」と「凧をあげる役」を交代で行ないました。凧をあげる時はひたすら走り、凧にも助けられ高々とあげることができ得意げな表情。サポートする子たちは、「あー！ からまった！ ストップストップ！」「先生！ 木にからまったー」と大きな声で知らせ、しっかりとサポートしていました。糸が絡まったときに無理に引っ張らずに自分たちでほどいたり、保育士に助けを求めることができたことで凧が壊れることがほとんど無く、他クラスとの遊び方の違いが感じられました。すごろくは「なにそれ？」と興味津々。初めの一回は保育士とルールを読みながら遊びましたが、二回目からは子どもたちもルールを覚え、自分たちで順番を決めたり、ゲーム内で使うお金やイベントカードを誰が持つか等役割を決めて楽しんでいました。お正月あそびはこれからも続きそうです。



生麦小学校交流

1月24日に小学校との交流がありました。小学校に行くことはもちろん、上履きを履くということがまず嬉しい様子の子どもたち。事前に上履きを持ってくることを知らせると「いつ上履き持ってくるの？」「明日？ 明日の次？」と毎日ワクワクしていました。当日は、一年生の考えたすごろくやコマ、魚釣りなどのコーナーで遊んだり、五年生と校内探険に行きました。大きいお兄さん・お姉さんと手を繋いで校内を回中で「ここは何をする部屋なの？」「ここは何年生の部屋？」など気になることがどんどん出てきてたくさん質問しながら歩いていました。広い校舎に「迷子になりそうだね」という声も…。最後は一年生と五年生の長いアーチをくぐり、その途中おみやげももらい大満足！ たくさん優しくしてもらったことが嬉しく、就学への期待が高まるぞう組のみんなでした。

おしらせ

- ・2月5日に行事食で恵方巻きを作ります。エプロンや三角巾は園で用意します。ギネスに載るようなながーい恵方巻きに挑戦です！
- ・お忙しい中、懇談会にご参加いただきありがとうございました。子どもたちの成長を喜び合える有意義な時間となりました。残り二ヶ月よろしくをお願いします。